

(2) 高齢者の居住環境

60歳以上の高齢者が、外出時の障害と感じていることをみると、「特にない」が44.5%であるが、障害と感じている事柄は、「道路に階段、段差、傾斜があったり、歩道が狭い」が15.2%と最も多く、「ベンチや椅子等休める場所が少ない」(13.7%)、「バスや電車等公共の交通機関が利用しにくい」(13.4%)と続いている(図1-2-6-3)。

(3) 高齢者の安全・安心

ア 交通事故死者数に占める高齢者の割合は過去最高

平成28(2016)年中における65歳以上の高齢者の交通事故死者数は、2,138人で、前年より109人減少したが、交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は54.8%となり、過去最高と

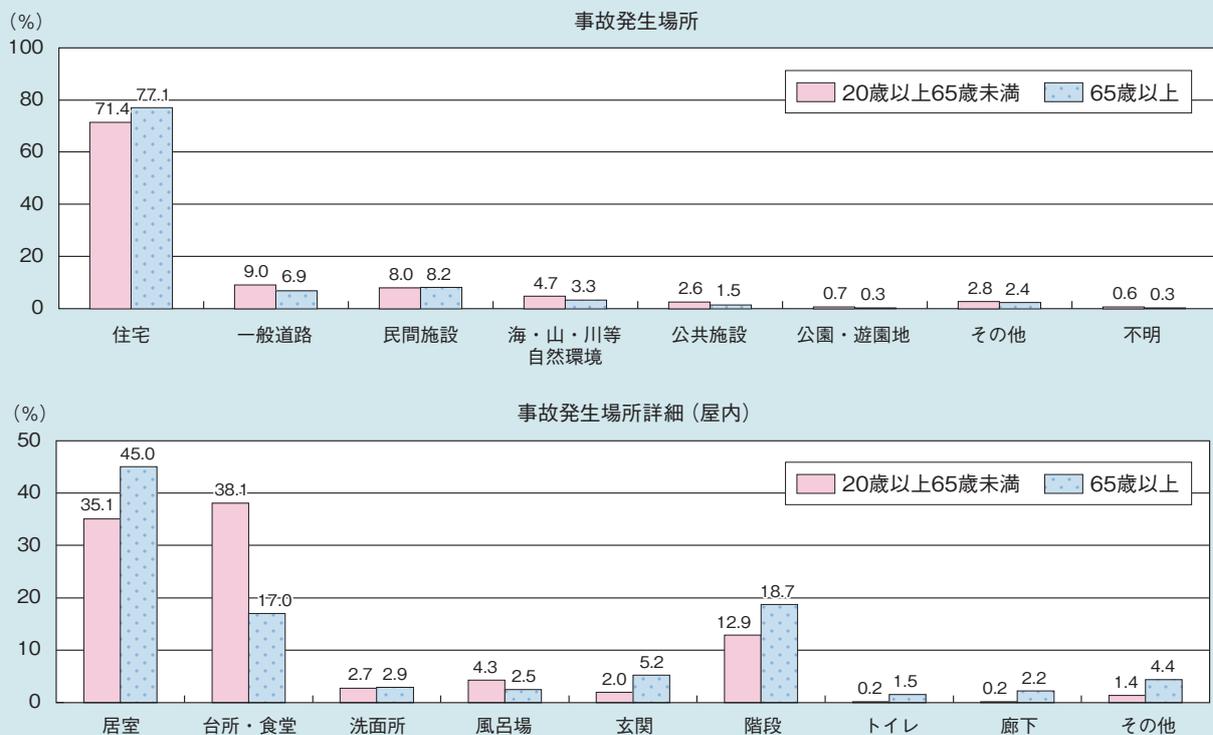
なった(図1-2-6-4)。

他方、75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数の割合は減少傾向にある(図1-2-6-5)。

イ 高齢者の刑法犯罪被害認知件数に占める割合は増加傾向

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、高齢者の刑法犯被害認知件数でみると、全刑法犯被害認知件数が戦後最多を記録した平成14(2002)年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、高齢者が占める割合は、27(2015)年は13.8%と、増加傾向にある(図1-2-6-6)。

図1-2-6-2 高齢者の家庭内事故

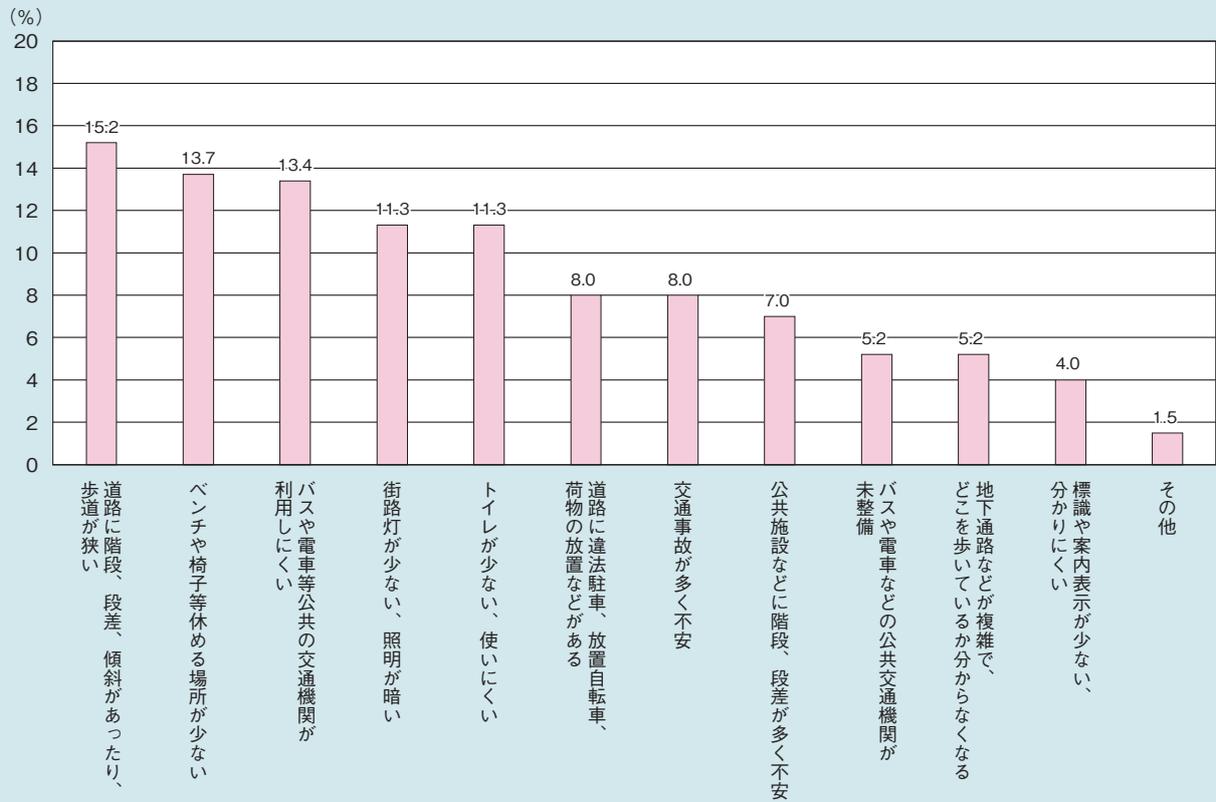


資料：独立行政法人国民生活センター「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故—高齢者編—」(平成25年3月公表)

(注1) 平成22(2010)年12月～平成24(2012)年12月末までの伝送分。

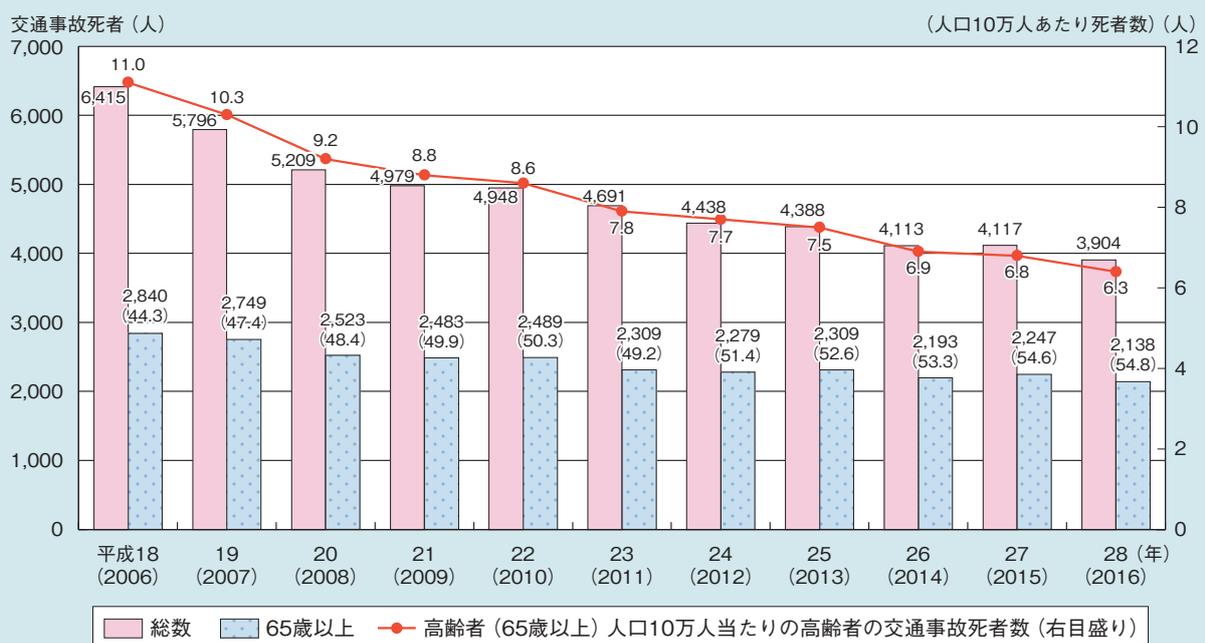
(注2) 事故発生場所詳細(屋内)については、不明・無回答を除く。

図1-2-6-3 外出時の障害（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-6-4 交通事故死者数及び高齢者（65歳以上）人口10万人当たりの高齢者の交通事故死者数の推移



資料：警察庁資料による
 (注) () 内は、交通事故死者数全体に占める65歳以上の割合。

ウ 振り込め詐欺の被害者の8割以上が60歳以上

振り込め詐欺（オレオレ詐欺、架空請求詐

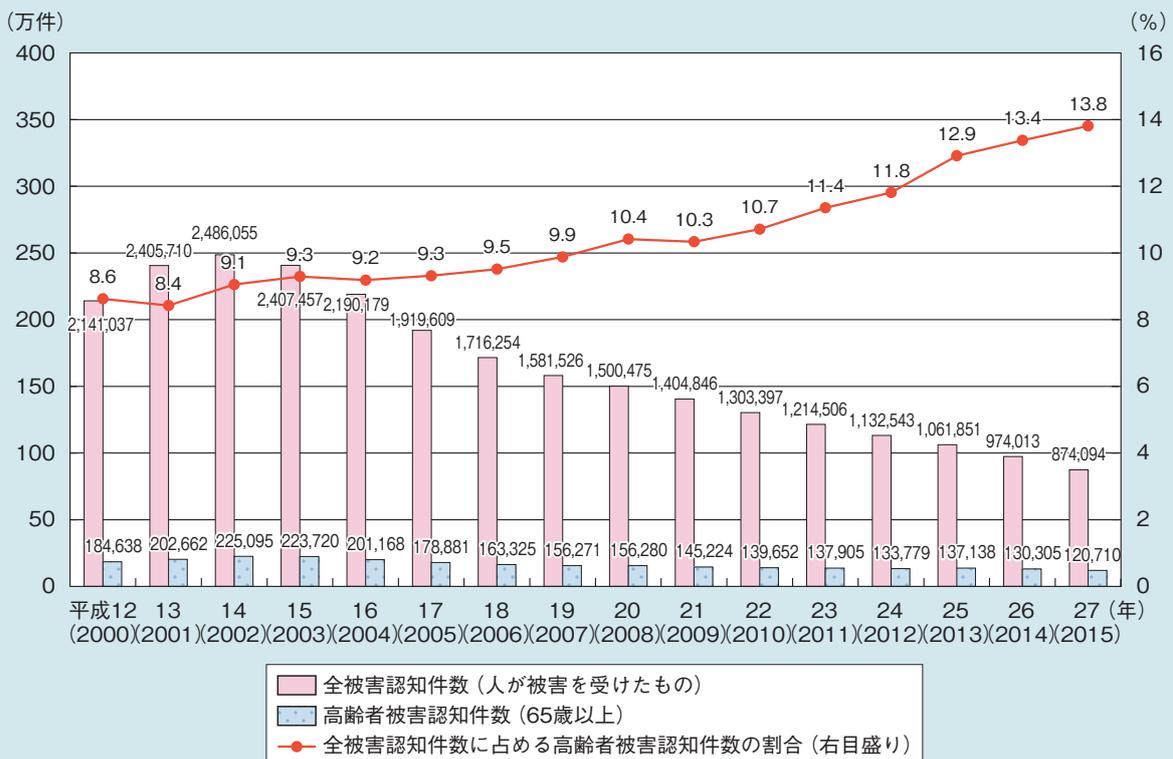
欺、融資保証金詐欺及び還付金等詐欺の総称）のうち、特に高齢者の被害が多いオレオレ詐欺の平成28（2016）年の認知件数は、5,753件と

図1-2-6-5 75歳以上の運転者による死亡事故件数及び75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数（原付以上第1当事者）



資料：警察庁資料による

図1-2-6-6 高齢者の刑法犯被害認知件数



資料：警察庁「平成26、27年の犯罪情勢」、「平成27年の犯罪」ほかより内閣府作成。

前年から微減となった一方、還付金等詐欺は3,682件と前年比で55.0%増加した。また、振り込み詐欺の被害総額は約375億円であった(表1-2-6-7)。

28(2016)年中の振り込み詐欺の被害者を見ると、60歳以上の割合は83.2%、オレオレ詐欺の被害者に限ると98.6%となっており、特に70歳以上の女性はオレオレ詐欺被害者の71.7%を占めている。また、還付金等詐欺の被害者についても、60歳以上の割合は97.7%となっており、特に70歳以上の女性は54.3%を占めている。

エ 高齢者の関与する消費トラブルの相談は約18万件

全国の消費生活センターに寄せられた契約当事者が70歳以上の相談件数は、平成20(2008)年から増加傾向にあり、25(2013)年には20万件を超えた。26(2014)年は197,146件で、前年より減少に転じ、27(2015)年も183,136件と前年より減少した(図1-2-6-8)。

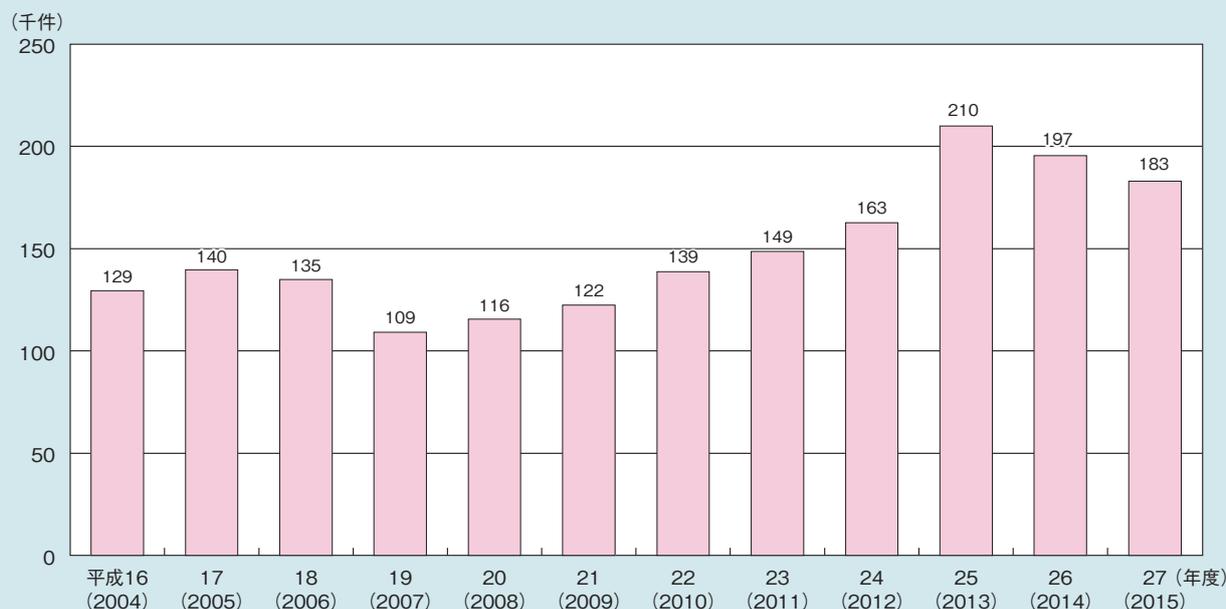
また、平成27(2015)年度に70歳以上の高齢者から寄せられた相談を販売方法・手口別にみると、電話勧誘販売が28,255件(15.4%)、次いで家庭訪問が24,336件(13.3%)となっている。

表1-2-6-7 振り込み詐欺の認知件数・被害総額の推移(平成20~28年)

区分	年次	20	21	22	23	24	25	26	27	28
認知件数(件)		20,481	7,340	6,637	6,233	6,348	9,204	11,256	12,741	13,605
オレオレ詐欺		7,615	3,057	4,418	4,656	3,634	5,396	5,557	5,828	5,753
架空請求詐欺		3,253	2,493	1,774	756	1,177	1,522	3,180	4,097	3,742
融資保証金詐欺		5,074	1,491	362	525	404	469	591	440	428
還付金等詐欺		4,539	299	83	296	1,133	1,817	1,928	2,376	3,682
被害総額(億円)		275.9	95.8	100.9	127.2	160.4	258.7	379.8	393.7	375.0

資料：警察庁統計。平成22年以降の被害総額は、キャッシュカードを直接受け取る手口の振り込み詐欺(ただし、22年から24年はオレオレ詐欺のみ)におけるATMからの引出(窃取)額を含む。

図1-2-6-8 契約当事者が70歳以上の消費相談件数



資料：独立行政法人国民生活センターホームページ「高齢者の消費者被害」(平成28年9月末日までの登録分)より内閣府作成

オ 住宅火災における死者数は約7割が高齢者

65歳以上の高齢者の住宅火災による死者数(放火自殺者等を除く。)についてみると、平成27(2015)年は611人と、前年より減り、全死者数に占める割合は66.8%となっている(図1-2-6-9)。

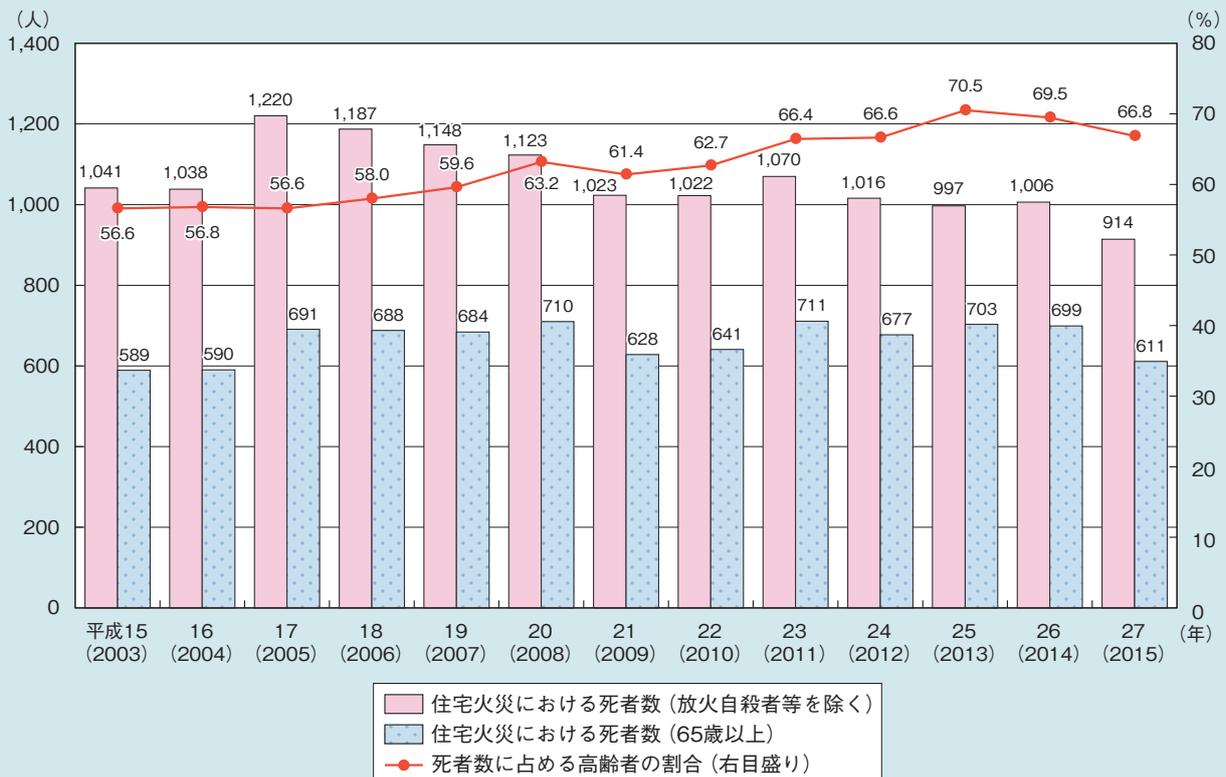
カ 養護者による虐待を受けている高齢者の約7割が要介護認定

平成27(2015)年度に全国の1,741市町村(特別区を含む。)で受け付けた高齢者虐待に関する相談・通報件数は、養介護施設従事者等によるものが1,640件で前年度(1,120件)と比べて46.4%増加し、養護者によるものが26,688件で前年度(25,791件)と比べて3.5%増加した。また、平成27年度の虐待判断事例件数は、養

介護施設従事者等によるものが408件、養護者によるものが15,976件となっている。養護者による虐待の種別(複数回答)は、身体的虐待が66.6%で最も多く、次いで心理的虐待(41.1%)、介護等放棄(20.8%)、経済的虐待(20.0%)となっている。

養護者による虐待を受けている高齢者の属性を見てみると、女性が76.8%を占めており、年齢階級別では「80~84歳」が24.1%と最も多い。また、虐待を受けている高齢者のうち、66.7%が要介護認定を受けており、虐待の加害者は、「息子」が40.3%と最も多く、次いで、「夫」21.0%、「娘」16.5%となっている(図1-2-6-10)。

図1-2-6-9 住宅火災における死者数



資料：総務省消防庁「平成27年(1月~12月)における火災の状況(確定値)」